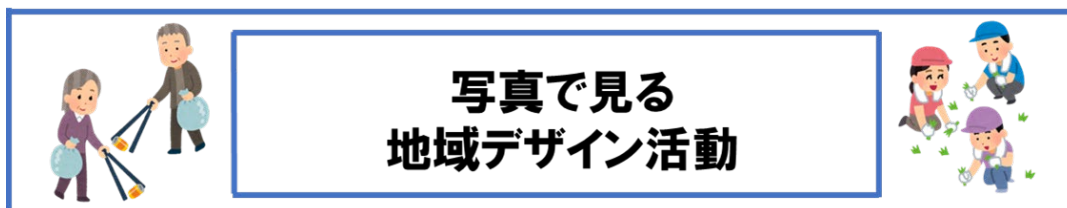


◆ ◆ ◆ 特 集 ◆ ◆ ◆



2025年4月にデザイナー号・第1号を配信し早1年となりました。

二年目を迎えるにあたり、会員の皆様の活動をコンパクトにまとめた「写真で見る地域デザイン活動」第一弾をお届けします。自治会活動、ボランティア活動、本格的な街づくり参画など、会員の皆様の地域とのかかわり方は様々です。まずは小さな第一歩を踏み出してはいかがでしょうか？

地域デザイン通信では、今後も会員の方々の活動を共有し、皆様のヒントにしていだけるよう編集していきます。会員の皆様方が、自分に合った地域・地元活動を見つけ行動に繋げていただければ幸いです。ご意見ご要望など、是非編集部までお知らせください。

地域デザイン通信・編集部一同

＊ ＊ 地元住民が憩う「通いの場」ボランティア活動に参加して ＊ ＊

宮崎泰雄会員 (796)



私が住む千葉県柏市には、商店街の空き店舗を活用した地域交流の拠点「はなみずき」があり、高齢者中心のボランティア40人でシフトを組んで運営しています。私もそこで3時間ほど、月2回ホールボランティアをして6年になります。会計・清掃、コーヒーや食事を提供しながらお客さんとコミュニケーションすることで、地域のフレイル予防策の一つである「社会との繋がり」に寄与しています。

＊ ＊ 塾に行けない子供たちへの学習支援活動の楽しみ ＊ ＊

横山祐作会員 (1169)



地元白井市の学習支援団体に参加して4年。様々な理由で塾通いができない中学生に週2回理科を教えている。元々子供が好きだったこともあり、地元の広報紙で活動を見つけて電話、採用された。決まった生徒を担当するので、徐々に心を開いてくれたり、高校合格の知らせに感動したり。生徒が大学生になって教えに戻って来るなど、良い循環を生む活動に携われていると思う。

＊ ＊ ささやかな故郷への恩返し ＊ ＊

池上眞平会員 (859)



国指定重要無形民俗文化財の備中神楽鑑賞会が、昨年11月に小生の生家（総社アートハウス）で開催された。

約100名の来場者達と演者達の熱気が、生家を満たした。「小学生達もシナリオを理解できる」と「演者に高校生達も含む」が、この伝統神楽の特徴だ。2009年開始の「小生の生家の活用による故郷への恩返し」は、総社リベラルアーツハウスとして、今後少なくとも10年間継続の予定。

＊ ＊ 市民菜園として再生した実家荒廃農地 ＊ ＊

大上周作会員 (1469)



空き家となり荒廃農地となっていた実家を4年前に市民菜園として開園しました。

農家は区画整備をした上で市に貸し出し、広島市在住・在勤の人が菜園として利用できる制度です。

50区画ある菜園は空きがない状態で、管理は高校の同級生が運営するNPO法人に頼っています。

帰省するたびに菜園利用者とのあらたな繋がりを楽しんでいます。

特集号のテーマ募集

今後も折々に地域活動関連の特集を組んでいきたいと思います。皆様からテーマを募集いたしますので、是非編集部までご提案ください。

dfchiiki-tsushin@directforce.org 編集部：小島千代美・松瀬高志・宮武里美・岡田知之

地域デザイン通信 バックナンバーはこちら <https://directforce.net/regional-design/> ページの一番下までスクロールしてください。